

授業科目	文学				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	NT10403J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-1			
担当教員	戸田 由美							
授業概要	<p>まず、あなた方が、日頃、気が付かなかった面白い話をします。しかし、それは見方を変えると、思いがけないほどの重要な意味があったりするのです。そういったことを前提にして、文学的考察に入ります。</p> <p>この学びは、文学作品はもとより、生きている現象のすべてを対象とし、それを分析し、自分の考えを自分自身の言葉で表現できるように、世界に向けて発信するべく習得する、大切な授業です。</p> <p>したがって、「文学とは何か」・・・「文学とは、あなた方にとってたいせつな実学」であることをまなびます。そのために、あらゆる視点から、テーマをさだめて、幾多もの方法で考察します。</p> <p>目からウロコの大きな発見があることでしょう。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1、多角的に視野が広がり、柔軟な発想ができる。</p> <p>2、読解力が向上し、文学の基礎的知識を習得できる。</p> <p>3、文学の背景にある日本文化および西欧文化の理解を深めることができる。</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	0	20	30	100	
知識・理解 (DP1-1)			50		20	30	100	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
習得した文学的センスを生かし、豊かな表現力と柔軟な発想でもって、様々な事柄を相手に魅力的に伝える能力を兼ね備えていること。				こころとことばの深い関係性について習得し、正しい日本語を用いて美しく表現できる能力を併せもっていること。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	今、なぜ文学なのか、あなたは「文学」をどのようにとらえているのか？			講義		復習すること		30

	その意義とは？			
2	「文学的エステの世界」 エステサロンではありません。 日本文化をあらわすキーワードはなにか？	講義	復習すること	30
3	『からだことば』って何か、知っていますか？ そのおもしろさを解説します。	講義	復習すること	30
4	こころとことば(1) 日本で一番古い愛の表現とは？	講義	復習すること	30
5	こころとことば(2) 太陽の色は何色？ 国際的視点で考えるとどうなるのか？	講義	復習すること	30
6	こころとことば (3) アメリカの図書館にねむる文献の紹介 明治期の隠された、真実…戦争文学について	講義	復習すること	30
7	嘘つきのパラドックス 4千年解けなかった事実と表現にせまる	講義	復習すること	30
8	源氏物語、光源氏の愛し方、愛され方、 あくまで文学的表情のなかで…	講義	復習すること	30
9	ベストセラー小説の意義について 特に、松本清張、森鷗外を中心として (外部講師)	講義	復習すること	30
10	外国映画を鑑賞する 家族の肖像を物語る作品をみる	講義	他の作品もさがしてみる	30
11	障がいテーマにした文学について	講義	復習すること	30
12	文学と性教育について、その関係性とは？	講義	復習すること	30
13	伝記、歴史文学について	講義	復習すること	30
14	昔話と日本人のこころ 昔話を例にしてその意義を説く。	講義	その他の作品を調べてみるこ と	30
15	今までの講義内容を振り返り重要点をおさえる	講義	復習	30分
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	新聞は欠かさず読むこと。			
テキスト	使用しない。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義中、必要に応じてプリントを配布する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	従来の国語学習とは異なる日本文化、あるいは日本語への新しいアプローチとなりますから、講義中理解できなかったところは、必ず質問してください。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	最後に提出していただくレポート、その他、講義中の態度等の総合点によって成績をつけます。「その他」では、授業への積極的な受講態度を評価する。			

